

## 平成 25 年度第 3 回陸上掘削部会執行部会議事録

日時:2013 年 12 月 6 日(金)16:00~18:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:井龍康文(部会長補佐/東北大学) 廣野哲朗(部会長補佐/大阪大学)

浅沼 宏(産業技術総合研究所) 小村健太郎(防災科学技術研究所)

小泉尚嗣(産業技術総合研究所) 須藤 斎(名古屋大学) 中田節也(東京大学地震研究所)

長沼 毅(広島大学) 藤原 治(産業技術総合研究所)

MORI, James Jiro(SAG 委員/京都大学防災研究所)

オブザーバー:木村 穰 佐伯健太郎(文部科学省)

事務局:梅津慶太(JAMSTEC/CDEX)

欠席者:

公文富士夫(信州大学) 菅沼悠介(国立極地研究所)

### 議事次第

1. 前回(130922)議事録確認.....資料 1
2. ICDP Science Conference2013 報告.....資料 2
3. 月刊地球特集号の状況報告.....資料 3
4. ICDP Workshop について
  - ・Tsunami WS Proposal
  - ・南アフリカ鉦床掘削 WS(2015-2016 開催予定).....資料 4
5. Rapid Response Drilling 和訳
6. J-DESC 活動関連
  - ・将来検討委員会状況報告
  - ・ニュースレター vol. 7.....資料 5
  - ・コアスクール.....資料 6
  - ・来年度総会日程
  - ・JpGU 関連(地球掘削科学セッション, タウンホールミーティング)

### 配布資料

- 資料 1 前回会議(130922)議事録(案)
- 資料 2 ICDP Science Conference 2013 各テーマの概要報告
- 資料 3 月刊地球特集 陸上科学掘削の将来展望—2013 年以降に向けた日本版白書
- 資料 4 南アフリカ鉦床掘削 WS について
- 資料 5 J-DESC ニュースレター発行の記録
- 資料 6 2013 年度産総研コアスクール案

## 議事録

### 1. 前回(130922)議事録確認.....資料 1

会議終了までに特に修正等はなく, 原案が承認された.

### 2. ICDP Science Conference2013 報告 .....資料 2

井龍部会長より報告がなされた.

- ・ 資料 2 の通りテーマごとに報告を書いてもらった. より正式な文書として J-DESC ニュースレターに掲載する予定である.
- ・ 日本からは地熱と津波を ICDP の重要なターゲットとするように提案してきた. 両テーマともカンファレンスのまともに含まれており, 提案は一定の成果を得た.
- ・ International Journal of Earth Sciences に特集号が組まれる予定であるので, 可能な場合は投稿することをすすめる.
- ・ 会期中, ICDP 側からは SAG 委員に関する話は特になかった. ※

※SAG 委員については, 木村企画官より日本からの推薦リストを送ったがその後特に動きはない.

### 3. 月刊地球特集号の状況報告 .....資料 3

廣野部会長補佐より説明がなされた.

- ・ 全部で 19 編が盛り込まれる予定.
- ・ 査読はなく, 内容は著者に任せられている.
- ・ 〆切の延長は今のところ考えていない.
- ・ 掲載順当については原稿がそろった段階で井龍部会長と廣野部会長補佐で決定する.

### 4. ICDP Workshop について

#### ・Tsunami WS Proposal

- ・ ICDP 側から WS Proposal を出してほしいとの要請があったが, もう少し体制を整えるため, 今回の〆切はスキップして 2015 年 1 月までの提出を目指す.
- ・ その旨を井龍部会長より ICDP の Brian Horsefield にレターを出す.

**合意事項(131206-01):** 来年の JpGU において津波堆積物掘削に関する小集会を日中の時間帯に開催する方向で検討する.

### ・南アフリカ鉱床掘削 WS (2015-2016 開催予定) .....資料 4

- ・ 南アフリカ鉱床掘削のためのワークショップを 2015 年に開催するために ICDP Workshop Proposal を提出する予定.
- ・ 小笠原氏が PI となって提案がなされる.
- ・ WS を実施するのであれば陸上掘削部会としてサポートできることはやりたい.

**合意事項(131206-02):** 南アフリカ鉱床掘削 PI の小笠原氏に次回執行部会への出席をお願いし, プロポーザル作成にあたってどういうサポートができるかをヒヤリングする.

### 5. Rapid Response Drilling 和訳

廣野部会長補佐より説明がなされた.

- ・ 数年前に RRD の英語パンフレットの和訳を外注し, 納品されたものの, 出版されずに今に至る.
- ・ IODP で JFAST が実施された今この段階で単に和訳パンフレットを出すことにどの程度意味があるか疑問がある.
- ・ そこで, 2 年ほどかけてこの内容を含めた教科書を作ってはどうかと考えている.

## 6. J-DESC 活動関連

### ・将来検討委員会状況報告

事務局及び井龍部会長より報告がなされた。

- ・ 10月2日に第1回会議を開催し、会員全体にアンケートを取ることが合意された。
- ・ 本日を〆切としてアンケートの回答を受け付けている。
- ・ 12月25日に第2回会議を開催し、アンケート結果をレビューする。

### ・ニュースレターvol. 7.....資料 5

- ・ 現在、年1回不定期発行となっているが、IODP 部会において総会や JpGU での配布を考慮した定期発行のほうが効果的であるとの合意に至った。
- ・ 毎号8ページで発行しているが、4ページ単位でページを増やすことができる(必ずしもページ制限をかけて記事を減らすことはない)。

**合意事項(131206-03):**総会や JpGU での配布を念頭に置いたタイミングで定期発行する(4月)。年度明けの総会前(4月)は予算が確定していないため、支払いは3月中に行うこととする。

**合意事項(131206-04):**陸上掘削部会としてのニュースレターへの話題提供は ICDP Science Conference の報告(井龍), JBBP(浅沼), ANDRILL(須藤・菅沼), NSF WS(小村・中田)の4つとする(各1ページ)。このほか、紙面が余れば、月刊地球の宣伝記事を掲載する。

**合意事項(131206-05):**陸上掘削部会側のニュースレター担当として須藤氏を指名する。

**実行項目(131206-06):**分量等の詳細な情報を執筆者に連絡する(実行者:事務局)。

### ・コアスクール.....資料 6

井龍部会長より説明がなされた。

- ・ 産総研で実施してきた岩石コア記載技術コースは大変好評で、今後も継続していきたい。
- ・ 実施者側の負担も考慮し、J-DESC 側で手続きをルーチン化する必要がある。
- ・ 今回の岩石コア記載技術コースは大坪氏が世話人で構造地質関連の内容となる。
- ・ 開催日程はまだ決定ではない。

### ・来年度総会日程

事務局より説明がなされた。

- ・ JpGU の会期がこれまでよりも早く、4/28-5/2となっている。
- ・ 毎年 JpGU に合わせて行われる地質学会の総会は、今回は別途実施される見込み。
- ・ JpGU に日程を合わせたほうが出席しやすいことを考え、IODP 部会では JpGU の前日 4/27(日)ではどうかとの意見で一致した。

**合意事項(131206-07):**来年度総会は JpGU(4/28-5/2)の直前の 4/27(日)にて調整を行う。

### ・JpGU 関連(地球掘削科学セッション、タウンホールミーティング)

事務局より説明がなされた。

地球掘削科学セッション

- ・ 地球掘削科学セッションのコンビーナーは、主提案者が斎藤実篤氏、共同提案者が廣野氏、池原研氏、梅津の4名。
- ・ IODP の日本海掘削航海の国際セッションが開かれるとのことで、この航海に関わるすべての発表が国際セッションに流れてしまわないように地球掘削科学セッションとの調整を行ってもらうため、日本海掘削航海のコアメンバーでもある池原氏にコンビーナーに入ってもらった。
- ・ IODP が新たなフェーズに入ったことを考慮し、これまで10年に行われた航海の成果を発表してもらうことを考えており、大きなセッションとなる見込みがある。このことは JpGU 側にも石渡 IODP 部会長より連絡を行う。

- ・ ICDP 側としても同様に呼びかけを行い、多くの発表をしてもらうべき。

#### タウンホールミーティング

- ・ JpGU が幕張幕張開催だった際には会場は毎年決まっていたが、今回は横浜開催であり、会場を探す必要がある。
- ・ J-DESC の会員から集めたお金では飲み物代を出すことはできないため、これまでは IODP-MI から飲み物代 10 万円を負担してもらっていたが、次回からはそれはなくなるため、飲み物を出すのであれば方策を考える必要がある。
- ・ 開催することは問題ないが、学生のためになるような話をするなど、参加のモチベーションになるような企画を検討することが必要。
- ・ 本来の役割ではないかもしれないが、将来検討委員会で決めるのはどうか。

**合意事項(131206-08):**タウンホールミーティングについて、開催すること自体は問題ない。開催に当たっては IODP 部会と調整を行う。

**実行項目(131206-09):**将来検討委員会において検討してもらってはどうかとの提案を石渡部会長及び村山委員長に連絡する(実行者:事務局)。

#### その他

- ・次回開催日程
- ・ メールにて調整する。
- ・ 次回はアウトリーチについて時間を取って話し合うこととする。